

| | | | | | |
|---------------|--|------|------|--------|--|
| 科目名 | 子どもの理解と援助 | | 担当教員 | 佐木 彩水 | |
| 単位 | 1単位 | 講義区分 | | ナンバリング | |
| 期待される学修成果 | | | | | |
| アクティブラーニングの要素 | ディスカッション、ディベート | | | | |
| 実務経験 | 幼稚園教諭・臨床発達心理士・幼稚園園長 | | | | |
| 実務経験を生かした授業内容 | 幼稚園現場での経験を生かし、幼児教育・保育の意義、子どもの理解と援助の実践的意義について講義する。 | | | | |
| 到達目標及びテーマ | 1, 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2, 子どもの体験や学びの家庭において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3, 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4, 子ども理解に基づく保育者や教師の援助や態度の基本について理解する。 | | | | |
| 授業の概要 | 保育・幼児教育は、人生最初の乳幼児期において、一人の人間が人間として生きていくその基本を培う。乳幼児期の育ちに必要なことやそのために必要とされる保育者の在り方を問い直し、討論し、理解を深めたい。具体的には、子ども理解の方法、子どもの在り様を受け止め、個々の子どもの育ちを支え促す保育者の在り方を、現在の子どもが抱えている問題をしっかりと見据えながら考えていきたい。 | | | | |

| | |
|------|-------------------------|
| 授業計画 | |
| 第1回 | 保育における子ども理解の定義 |
| 第2回 | 子どもの理解の基づく用語と教育の一体的展開 |
| 第3回 | 子どもに対する共感的理解と保育 |
| 第4回 | 子どもの生活や遊び |
| 第5回 | 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 |
| 第6回 | 子どもの集団での育ち |
| 第7回 | 葛藤やつまずき |
| 第8回 | 保育の環境の理解と構成 |
| 第9回 | 環境の変化や移行 |
| 第10回 | 子どもを理解するための観察・記録・省察・評価、 |
| 第11回 | 職員間の対話 保護者との情報共有 |
| 第12回 | 発達の課題に応じた援助とかかわり |
| 第13回 | 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 |
| 第14回 | 発達の連続性と就学への支援 |
| 第15回 | まとめ |

| | | |
|------------|------------------------|---------------------------|
| 事前学修 | 0.5時間 | テキストの該当箇所を読んでくること |
| 事後学修 | 0.5時間 | 授業で学んだことの整理。必要に応じて課題を与える。 |
| フィードバックの方法 | 個別にコメントするほか、総合評価を説明する。 | |

| 成績評価方法 | 割合 (%) | 評価基準等 |
|---------------|--------|-------------------------------|
| レポート | 50% | 授業内容が反映されているかどうか |
| 上記以外の試験・平常点評価 | 50% | 1) 小テストを1回実施。授業内容の理解度により評価する。 |
| 定期試験 | 0% | 実施しない |

| | |
|------|--|
| 補足事項 | |
|------|--|

| 教科書 | | | | |
|-----------------|---------|---------|---------------|----|
| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
| 子どもの理解と援助 演習ブック | 松本峰雄 監修 | ミネルヴァ書房 | 9784623090679 | なし |
| 参考資料 | | | | |